

# 行動科学に基づく予防医療促進に関する政策

慶應義塾大学大学院 理工学研究科 博士課程

小川 健司

## 概要

- 健康寿命の延伸を目的とした健康行動を促進する行動介入を提案する。
- 統計分析に基づき、行動に直接影響をもたらす介入をおこなうことで効果的な介入が可能
- 地域ごとに調査をおこなうことで国民性、地域性を考慮した介入が可能
- 介入のために測定したデータは共有可能とし、自主的に効果的な介入ができる仕組みを作る

## 実現すべきビジョン

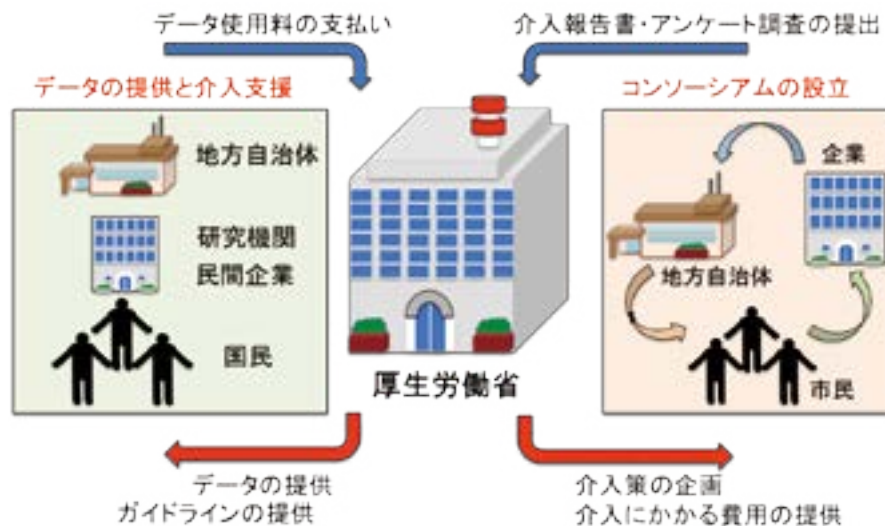
### 健康行動のエコシステム化実現

はじめは国主体でおこない、少しずつ自主的に行動する仕組みづくり

どのような潜在変数を刺激すれば行動につながるのか、  
本質的な要素を知ることができれば  
それを使って自主的な行動変容ができるのでは

## 提言の具体的内容

- 各地域ごとに行動を促す潜在要因を特定し、介入効果を測定し、自主的に健康行動をおこなう政策を実現する



### ■具体的な提言項目

- 提案1 コンソーシアムを作り、介入プログラムを実現する。
- 提案2 分析に用いたデータは、有料で共有する。
- 提案3 どの人も簡単に行動変容プログラムが作れるよう、簡易的な成果報告書を作成する。

## 提言先

- 厚生労働省